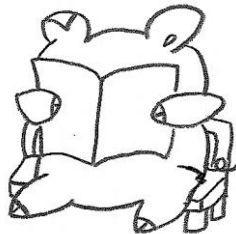


SEIG LIB-NEWS

文化遭遇たまたばこ



2020年9月7日発行
聖学院中学校・高等学校
図書委員会

半年ぶりの発行です！

3月1日からの一斉休校以来、図書館では、図書館だより「LIB-NEWS」の発行を休止し、代わりにGoogleClassroomで毎週「図書館ちゃんねる」を配信し、おすすめ本の紹介や、絵本の読み聞かせ、スタッフから高3生徒へのメッセージなどをお届けしてきました。

分散登校から全員登校に切り替わった今月から「LIB-NEWS」を再開します。恒例の「ルーエッセイ」では、2月に辻本事務長、3月に塩川さん(情報担当)に執筆していただいた流れにそって、これからも事務職員の方にご協力いただく予定です。学校の事務室には、君たちの将来の仕事のすべての種類が詰まっています。また、学校の運営は教員だけでは成り立ちません。

「陰の立役者」である事務職員の方々のエッセイをお楽しみください。

休校期間と分散登校を乗り越えた聖学院は、授業も図書館も新しいステージに入ります。今号では、そのいくつかを紹介します。

「利用案内」(ミウラ折)をさしあげます！

「2020年度版図書館利用案内」を中1生徒に配布しました。中2～高3で欲しい生徒には図書館カウンターでさしあげます。スタッフまでお声がけください。今年度はミウラ折を採用しました。



聖学院図書館は、「令和2年度文部科学大臣賞」を受賞しました。

図書館でのBYOD

2学期に入り、BYOD(Bring your own device)が始まりました。図書館で、先生の指導の下、個人デバイスを使用する場合、所定の申請書に記入して、専用の平机を使います。

詳しくはスタッフまでお尋ねください。

図書館のコロナ感染防止対策

全員登校が始まりましたが、図書館では生徒間の安全な距離を保つため、今後も、入館制限を継続します。スタッフの指示に従ってください。引き続き下記の点に注意して、図書館を利用しましょう。

1、自分の荷物を持ち込みます。

当面の間、ロッカーの使用を休止します。自分の荷物は自分で管理してください。



2、○検温 ○マスク ○消毒

×会話 ×接近

手指消毒を行ってから、図書館に入り、館内ではマスクを着けてください。



3、身分証明証

君たちの入退室時間を記録しています。そのため、入館する際には、必ず身分証明書を提出してください。

4、座席指定

周囲との距離を十分に取るために、現在、使える座席を制限しています。シールが貼ってある席を利用してください。



5、飲食禁止

館内での飲食はできません。

◎教職員のリレーエッセイ◎ 第78回

事務室 会計担当 清水 哲夫さん

好奇心の徒然草

イタリアに行ったときのことで、旅の最終日、早朝の飛行機で日本に戻ることになっていました。その前夜、宿泊しているヴェネチアのホテルで、フロントに「明日、早朝にチェックアウトする」と、その時刻を伝えました。その日はサマータイムが始まる前日で、翌日には時刻が1時間繰り上がります。つまり、明日になると時計の針が進み、1時間早く出発しなければならないのです。宿泊しているホテルには空港まで送迎してくれる人がやってくるようになっていました。なれない私にとっては、明日からサマータイムであることを確認する意味も込めてフロントに申し出たのです。

ところが、夜勤を担当するフロントのお兄さんは、あまり細かいことを気にしない様子の人でした。早朝に出発することには「わかった」という素振りだけで答えるのですが、肝心のサマータイムについては「よくわからない」とげんなりした顔をします。なぜイタリア人が「わからない」と言うのか。誰が勘違いしているのか。私は焦りはじめました。何とか理解してもらわないと送迎の人と会えず、飛行機に乗り損ねるのではないかという気持ちになってきました。必死になってフロントで「明日からサマータイムだね」と繰り返しました。しかし、意味の呑み込めないお兄さんは「ミステリアス」とつぶやくのです。

翌朝、はたして私の予定していた時刻に送迎の人は迎えにきました。当たり前のように約束の時刻にやってきたのです。お兄さんも眠そうにフロントに出てきて、私はチェックアウトを済ませました。ここが普通の町でしたら車で空港まで連れて行ってもらうことになります。ところがヴェネチアには車が進入できません。迎えにきた人の後を追って、河川まで連れられて、待っていたボートに乗り、岸に着いたら車に乗り換え空港に向かう。それは見事な連携でした。あたりはまだ夜が明けておらず静かで、まるで映画で見た脱出作戦か何かのよう、気持ちが高ぶりました。それと同時に、「ミステリアス」という不本意な言葉に押しつぶされ、悶々とした気持ちでいた昨夜のことが思い出され、イタリアにいることを強く実感した記憶があります。

建築家の内藤廣の著書に、それは古い教会建築などにみられる組積造の建築の話だったのですが、塩野七生というイタリア史を研究する作家の話が引用されていました。ある年のローマで蚊が大量に発生した時のことです。調べたところ下水道が原因であることがわかりました。そして、その下水道は古代ローマ帝国の時代を最後に大掃除されていないこともわかったという話です。この話に興味をもち、塩野七生のエッセイを読みました。すると、この問題についてローマ市議会が、「どうせ2000年間も掃除をしなかったのだから、ここ2、3年やらなくても不名誉にならない」といった様子で、ウヤムヤにしてしまったと書かれています。

いずれの著書でもローマ時代に構築された技術は、2000年ものあいだ人々の生活を支え続けるほどに優れていたことを述べています。ちなみに塩野七生は滝野川出身です。10年ほど前、王子の北とびあでドナルド・キーンとの対談がありました。キーンも西ヶ原に長年居住していました。生前、旧古河庭園の近所でキーンさんを見かけたことがあります。北区にゆかりのあるこの2人の対談を聞きに行きました。両者とも翻訳や物語を書き、文学を通じて異文化を伝え、働きかけることを職業の軸に据えているのだと思いました。

本は人の価値観に触れる手段です。何かに好奇心をもったらどんな手段で調べてもよいと思います。ですが、ぜひ調べる手段に「書店に行く」「図書館に行く」も選択肢に入れて下さい。本を読むことは、「自分にあった本を見つける能力を身につける」ことになると思います。

会計のお仕事

清水さんは、みなさんからお預かりした学納金を、授業に必要な備品の購入や、施設の修理などに振り分けたり、模試や学校行事のために集めたお金を支払いに回したり、といった仕事をされています。

「会計は厳密な仕事なので、あえて『杓子定規』に判断しながら処理することを繰り返しています。でも、これだけでは学校がつまらなくなってしまうので、『みんなが通いたいと思う学校にするためには、どうすればよいか?』『保護者の負担を減らすにはどうすればよいか?』を日々考え、いろいろな人と話し合い工夫をしています。これが学校会計の面白いところかもしれません」というお話でした。